

# interfm

The283th Programming Deliberation Committee

第283回番組審議会 議事録

開催日 2024年11月19日（火）

出席者：山田吉彦委員長、角田陽一郎委員、長崎亘宏委員、安藤美冬委員、望月理恵委員

議題（審議番組）：『REIKO So far, so good.』

放送日時：2024年 10月3日（木）23:00-23:30

DJ：REIKO

## 会社からの説明

interfm の編成方針である〈音楽〉と〈グローバル〉。

その発信者となりうる新たなDJを探している中で、REIKOに出会いました。

REIKOは、語学力に加えて、音楽的素養と魅力的な人間性を兼ね備えており、

interfmとして、彼のシンガーとしての将来、

そしてラジオDJ としての可能性に期待を寄せ、今年の6 月より、放送を開始しました。

また、当プログラムはinterfmでの放送を軸に、

AuDeeメンバーシップの「スナックREIKO」

YouTubeでのアフタートークといった、派生ネットコンテンツも配信しております。

## 委員からの意見・感想

### 審議委員A

楽しく拝聴できた、いい番組だった。

interfmらしい番組で、REIKO があらゆる可能性を秘めたアーティストということがわかり、

能動的に彼のことを調べたくなった。

フィリピンチャートは彼のルーツでもあるので、説得力がある一方で、

香港チャートなどを紹介する時にどのように向き合うのか？ツーリストになった気持ちで、

旅人的な視点で紹介するのも良さそうな気がした。

一方で、「スナック REIKO」には違和感を感じてしまった。

彼のグローバルな雰囲気を考える別の表現の仕方でも良いのではと思った。

### 審議委員B

5ヶ国語を話せるグローバル性は素晴らしい。

音楽だけでなく彼の声がキラキラしていて、聴いていて気持ちが良かった。

フィリピンのチャート紹介は新鮮で面白く、REIKO による他の国のチャート紹介も興味を持った。

「DM 送ってみようかな」など、今のアーティストっぽい言葉も良い一方で、

チャートを紹介するときの「では、FM ラジオっぽく紹介しますね」のフレーズが REIKO に合っ

ていない気がした。また、「スナック REIKO」での、レイコママとのやり取りの昭和感は、REIKO が

グローバルに活躍することを考えると少し違和感を感じた。

#### 審議委員 C

楽しく聞かせて頂きました。フィリピンチャートが新鮮だった。  
5位からサビ出しで曲を聴きながら REIKO が説明をし、最後に 1位の曲を頭から聴くという構成は、  
30分番組という限られた時間の中では勿体無い気がしました。  
1位の曲だけ先に紹介だけして、後から曲を掛けた方が、1位の曲の意外性も伝わる気がした。  
ちょっとした演出にもう少し気を使うと、更に良くなるのでは?と思った。

#### 審議委員 D

ピュアで真っ直ぐな人間性を感じた。  
フィリピンのチャートを日本のラジオ番組が紹介するのは新鮮でとても良い試みだと思った。  
REIKO の 5ヶ国語を話せるグローバル性もさることながら、何より人柄が魅力的で、  
彼の声は胸にスッと入ってくる。彼の将来性が楽しみである。

#### 審議委員 E

心地よい番組で、あっという間に時間が過ぎた。  
聞いたことがない素晴らしい音楽との出会いがあった。番組を通して、REIKO に興味を持てた。  
フィリピンチャートの紹介など、FM ラジオだからこそできるチャレンジは素晴らしい。

一方で、スナック REIKO は異次元で、すぐには自分の中でリンクがしてこなく、もうひと工夫あっても良いのではと感じた。

#### —会社側の回答

番組に対する評価、改善・要望などの意見を真摯に受け止め、より質の高い音楽番組の制作に向け改善を図る。

以上